

セキュリティ人材育成を通して、社会の安心・安全に貢献

■概要

ナショナルサイバートレーニングセンター内に設置されたサイバートレーニング事業推進室は、当センターにおけるサイバーセキュリティないしICTに係る人材育成事業を円滑に推進するための各種業務を担当する部署である。

当センターは、全国規模で、年間100回、合計3,000人を超える受講者に対し、実践的サイバー防衛演習「CYDER（サイダー）」を実施しているだけでなく、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連組織のセキュリティ関係者に対しても「サイバーコロッセオ」を実施しているうえ、若年ICT人材を対象に、若手セキュリティイノベーター育成プログラム「SecHack365（セックハック サンロクゴ）」を実施しているが、これら当センターが実施する演習等の事業を執行し、NICTの研究・開発成果を社会に還元するためには、以下の多種多様な業務を付随して行う必要がある。

- ・演習等予算の確保及び関係省庁等連絡調整
- ・事業方針の企画及び立案
- ・年間演習計画の策定
- ・予算及び要員等執行管理
- ・演習等支援業者の選定、契約及び管理
- ・演習会場、演習設備及び募集システム等管理
- ・受講生の募集、受付及び受講者決定
- ・周知啓発、広報及び取材対応
- ・外部問い合わせ、見学及び政務等の視察等対応
- ・事業別実行委員会等(アドバイザー・コミッティー、

CYDER実行委員会、サイバーコロッセオ実行委員会及びSecHack365実行委員会)事務局運営及び実施

これらの業務は、当センターの事業執行を支え、その屋台骨を担う必要不可欠な業務であるうえ、事業規模の拡大に伴い、業務量も飛躍的に増えており、その重要性は一段と高まってきている。

このような状況下で、当事業推進室は、適時、その人的資源を確保し、組織を補強しながら業務を行い、国内最大規模の演習にまで成長したCYDERや、平成29年度が実施初年度となるサイバーコロッセオ及びSecHack365の事業執行を支え、以下の成果を得ることができた。

■平成29年度の成果

1 CYDER演習受講者3,000人達成

平成25年度に開始されたCYDER演習は、当初、総務省を実施主体として、東京都を中心に年間受講者200人規模で実施されてきたが、NICTに移管された平成28年度以降、対象者に応じた演習シナリオを用意するなどし、より多くの受講機会を確保するための取組がなされた結果、その規模を飛躍的に拡大してきており、平成29年度には、全国47都道府県で合計100回の演習が実施され、当初予定の受講者3,000人を上回る3,009人が受講した(図1)。

なお、その内訳は、同年度から新設された初心者向け

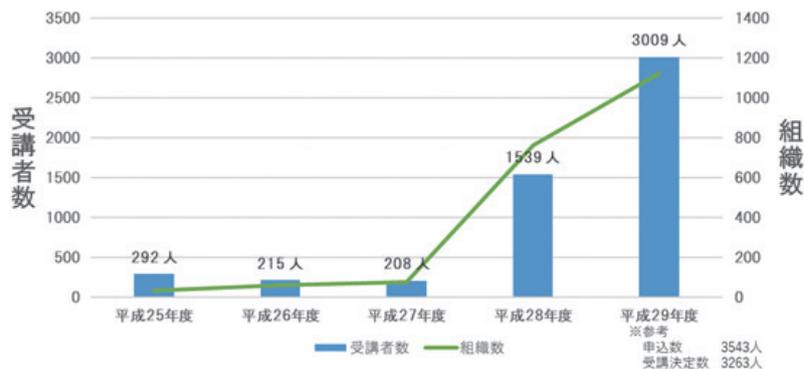


図1 CYDER受講者の推移



図2 サイバーコロッセオ演習会場を視察する坂本総務副大臣の様子（総務省HPより）

のAコース（47都道府県で全59回実施）が1,477人、既にある程度のサイバーセキュリティに関する基礎知識を持つ中級者向けのBコースのうち、地方公共団体向けのB-1コース（全国11地域で全21回実施）が649人、国の行政機関・独立行政法人・指定法人・重要社会基盤事業者向けのB-2コース（東京都で全20回実施）が883人であった。

また、Aコースの新設により、受講者の裾野が広がった結果、平成28年度に765組織であった受講者所属組織数が、平成29年度においては、1,125組織にまで増加した。

2 サイバーコロッセオ初年度実施

平成29年度からNICTにおいて実施を開始したサイバーコロッセオには、大会組織セキュリティ関係者合計74名が参加したが、その内訳は、中級者向けコースが34人、データ解析者レベルを想定した準上級コースが40人であった。

なお、サイバーコロッセオは、NICTイノベーションセンター（大手町）内に設置されたTCR（Training & Collaboration Room）で実施されたが、このTCRは、CYDERやサイバーコロッセオ受講者等が能動的に参加できるトレーニングなどの場の提供と、その他外部連携コラボレーションの加速を目的として設置されたもので、ナショナルサイバートレーニングセンターにおいて、大型スクリーンや電子黒板等、演習に必要な備品等の整備を進め、平成29年12月から本格稼働している。

このTCRで実施されたサイバーコロッセオには、社会的にも強い関心が寄せられており、坂井総務副大臣による視察が行われたほか（図2）、東京2020大会に向けたセキュリティ人材育成の取組として新聞報道等がなされた。

3 SecHack365初年度実施

初年度実施となったSecHack365では、選抜された47



図3 SecHack365成績優秀者による海外派遣SXSWハッカソン出場の様子



図4 SecHack365成果発表会場を視察する小林総務大臣政務官の様子（総務省HPより）

人のトレーニーに対し、平成29年5月にNICTで行われた説明会に始まり、同年6月から平成30年2月までの間、合計5回の集合研修を実施したほか、成績優秀者4名に対し、海外ハッカソンSXSW（サウス・バイ・サウスウエスト）への視察派遣を実施した（図3）。当事業推進室においては、サイバートレーニング研究室及び有識者で構成される実行委員会等と連携を取り合い、関係するイベント等の事業執行を支えた。

そして、同年3月の最終成果発表会においては、トレーニーが、1年間を通しての研究・開発及びもの作りの成果として、深層学習を用いたフィッシングサイト検知システム、ダークウェブ統合分析プラットフォーム及び仮想空間でサイバー攻防を体験できるゲーム等優秀な作品を多数発表した。

この最終発表会には、報道関係者やサイバーセキュリティ関係者が多数来場し、トレーニーらに対し、発表内容等に関する取材・質問をするなどし、新しい若手ICT人材との交流を深めていたほか、小林総務大臣政務官も視察に訪れ、トレーニーらに対し、日本のセキュリティ産業を活性化して欲しいと激励の言葉を贈られた（図4）。